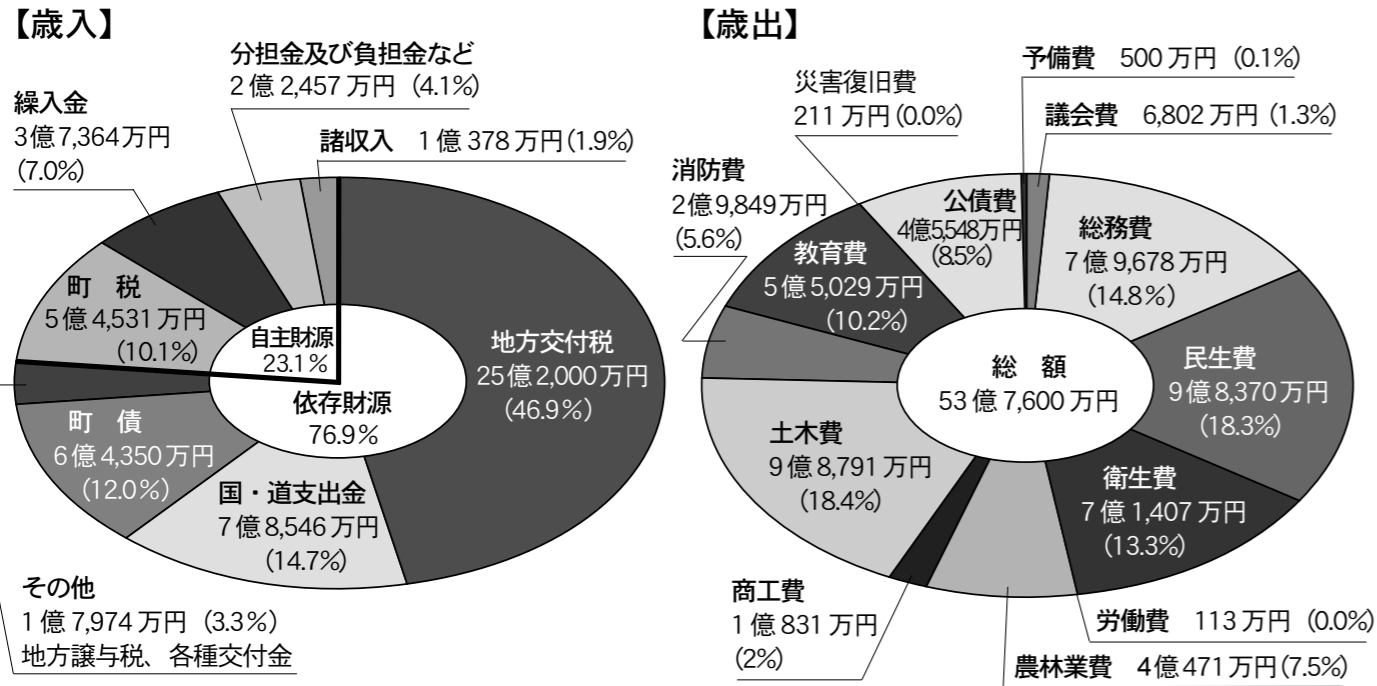


グラフ 一般会計予算額の科目別内訳



【表2】 町民1人当たり予算額 (一般会計分) 1,052,673円

※平成28年2月末現在の住民基本台帳人口5,107人で計算しています。

議会費	13,320円	総務費	156,017円	民生費	192,617円	衛生費	139,822円	労働費	221円	農林業費	79,247円	商工費	21,208円
土木費	193,443円	消防費	58,448円	教育費	107,752円	災害復旧費	412円	公債費	89,187円	予備費	979円		



平成28年度 津別町の予算 76億4千万円の使い道

平成28年度の町の予算が、町議会の審議を経て決定しました。予算の総額は76億4210万円で、前年度比6.8%の増となりました。また、行政サービスの中心となる一般会計は、53億7600万円で前年度比14.7%の増。本年度も職員一丸となり、効果的な行財政運営に取り組みます。今月の特集では、町の予算内容についてお知らせします。

【表1】 平成28年度会計別予算額の内訳

会計名	予算額	前年度比
一般会計	53億7,600万円	14.7%増
特別会計		
国民健康保険事業特別会計	8億8,430万円	11.6%減
後期高齢者医療事業特別会計	8,740万円	5.9%減
介護保険事業特別会計	5億6,190万円	6.5%増
下水道事業特別会計	4億9,520万円	16.5%減
簡易水道事業特別会計	4,100万円	8.9%減
企業会計		
上水道事業会計	1億9,630万円	5.9%減
合計	76億4,210万円	6.8%増

一般 前年度比で 14.7%の増

町民の生活全般にわたる施策を行うために経理するのが「一般会計」です。緊急性とともに住民要求の高い事業を選択しながら、より効果的な予算編成を行なった結果、本年度の一般会計予算の総額は、表1のとおり前年度比14.7%増の53億7600万円となりました。この主な要因は、町営住宅（西町団地）整備事業関連経費の増によるものです。

特別 特別会計予算は 前年規模を下回る

特別会計の増減の主な要因につきましては、国民健康保険事業特別会計は保険給付費の減、後期高齢者医療事業特別会計は後期高齢者医療広域連合納付金の減、介護保険事業特別会計は地域支援事業費等の増によるものです。下水道事業特別会計は消費税及び管渠等施設整備事業の減、簡易水道事業特別会計は給与費及び給水施設管理経費の減によるものです。

歳入 歳入の7割を超える 編成 依存財源

一般会計予算額を科目別に見たのが上のグラフで、歳入は左上の円グラフです。国から交付される地方交付税が25億2000万円（前年度比5.0%増）で歳入の46.9%を占めています。これに国・道支出金、地方譲与税などを加えたものが依存財源と言われるもので、歳入全体の76.9%を占めています。

また、町債は町営住宅等建設整備事業による土木費の増により、前年度比101.5%の増となりました。一方、自主財源のうち町税は5億4531万円、前年度より4.0%の増。分担金及び負担金は1467万円で前年度比5.8%の減となりました。

歳出 公債費は0.7%の 編成 減額

次に、右上の円グラフは歳出を科目ごとに表しています。歳出の8.5%を占める公債費は、事業を実施するときの借付たお金の償還金で4億548万円を支払うこととなりますが、昨年度から比較すると339万円の減額となっています。

町民 町民一人当たり予算 105万2673円

また、表2は、今年一般会計の予算額を町民一人当たりで割り返した金額です。町民5107人の一人当たりの金額は、105万2673円となり、それぞれの科目に振り分けられた予算は、まちづくりや皆さんの暮らしに役立てられます。